中国人結婚移住女性の接続表現
―初級日本語教科書の談話展開の分析を通じて―

王　瑜　青

Abstract

This paper examines the actual Japanese proficiency of Chinese marriage immigrant women, focusing on the use of connective expressions. Interview research was conducted with two Chinese immigrant wives living in Niigata. Connective expressions are introduced in the relatively early stages of elementary Japanese textbooks. However, the two interviewees did not seem to have a high level of proficiency in using connective expressions. One interviewee was able to use conjunctions and connective particles to form a discourse of several sentences, though with a few errors in their precise usage. By contrast, the other interviewee did not use connective expressions at all and simply juxtaposed simple sentences. It is necessary to reconsider the arrangement of connective expressions in textbooks for immigrant Japanese learners in a process of language relearning.

キーワード……中国人結婚移住女性　接続表現　初級日本語教科書　談話展開

1　はじめに

本稿では、インタビューにより中国人結婚移住女性[1)]の実際の日本語能力を検証し、特に談話展開における接続表現に関して初級日本語教科書と対照しながら検討する。

王瑜青（2016）では、国立国語研究所が公開している日本語学習者会話データベースを利用して、日本人と結婚し、現在日本に在住している中国人結婚移住女性の日本語能力の実態について考察をおこなった。分析の結果から、彼女たちが自分の日常生活、物事に対する意見や感想を日本語で伝えることはできるが、文と文をつなぐための接続詞、接続助詞の不適切な使用でまとまりのある話を展開しようとする時、日本語がわかりにくくなる傾向があることがわかった。中国人結婚移住女性、つまり地域に在住し日本に永住する可能性が高い人たちにとって、日本語で自分自身が話を組み立て、日常生活で何かについて説明したり自分の意見や考えを述べたりする場面は、日本の滞在期間が長くなるほど多くなると考えられる。そのような場面で、言いたいことを適切に伝えることはきわめて重要である。

一方で、多くの中国人結婚移住女性たちは、経済的あるいは時間的理由から、来日前あるいは来日後に短期間の初級日本語教育しか受けられないのが現状である。初級の日本語学習が終わると、日常生活での自然習得のみが彼女たちの主な日本語習得手段となる。しかし、闇雲に

文法事項や語彙だけを習得しても、日本語運用力は向上しないと考えられている。従って、「日本語学習の経験があり、日常生活において日本語でのコミュニケーションには困らないが、複雑な話になるとうまく伝えられない」[2)]などの悩みを改善したいと願っている彼女たちにこたえられる学習内容の設計が日本語教育の 1 つの課題であると言える。

深川（2009：2）は、「発話を、ひとまとまりの話、つまり談話へと組み立てていくには、発話と発話をどのようにつないでいくかということが問題になる」と指摘している。そして、その役割を担う言語形式の一つには、接続表現[3)]があると述べている。そこで本稿ではまず、筆者自らがおこなったインタビュー調査に基づき、中国人結婚移住女性が日本語でひとまとまりの発話をおこなうときの談話展開の過程を分析する。次に、基礎日本語の教科書が談話展開、特に接続表現をどのように扱っているのかをみる。それらの分析を通じて、彼女たちの円滑な日本語談話展開を支援できるような教材の在り方を考える。

2　先行研究

2.1　談話展開における接続表現について

メイナード（1997）は、談話は「実際に使われる言語表現で、原則としてその単位を問わない。言語一語でも談話と言えるが実際には複数の文からなっていることが多く、何らかのまとまりのある意味を伝える言語行動の断片である」と述べている。また、従来、話し言葉と書き言葉は個別のものとして扱われる傾向があるが、本研究は、話し言葉と書き言葉を問わず、コミュニケーションのために使うまとまりの意味あるものを「談話」として捉える。

談話のまとまりを支える要素に関して、「結束性」と「一貫性」（Halliday and Hasan 1976）が挙げられている。小山（2014）は、結束性を「言語的・文法的なつながり」、一貫性を「意味的なつながり」と定義している。つまり、あるつながりは談話のまとまりを保証している。さらに、池上（1983）は、接続詞をはじめとする接続表現は文と文をつなぎ、ある関連性を明示的に保っていると指摘している。談話としてのまとまりを持たせるために、接続表現の談話展開における使用方法を把握するのは重要であると考えられる。

談話における接続表現は、特に参加者が二人以上の場合、作文とは異なり、単に前件と後件を結び付け、論理関係を示すだけではなく、参加者相互の人間関係を調和し、談話の進行をコントロールするために重要なものである（孫莉 2015：84）。そのため本稿の第 3 節では、中国人結婚移住女性がどのように接続表現を使い、談話を展開していくのかを分析する。

2.2　日本語教育における研究

日本語教育における接続表現の研究は、学習者の接続表現の習得に関する研究と学習者の接続表現の特徴に関する研究の二つの分野に大きく分けられている。接続表現の習得に関する研究には、石田（1991）、深川（2009）などがある。石田（1991）は日本語の習得過程を明らかに

するため、フランス語を母語とする 63 名の日本語学習者の発話における特徴を分析した。その結果、学習者の習得段階によって発話の長さや文の接続方法が変化すると指摘している。石田（1991）によれば、初級の段階では、「～たり～たりする」、「～ながら～」の代わりに「て」形による接続が多用されることと、発話が長くなるに伴い、誤用が増加しているという傾向がある。

接続表現の使用特徴に関して、学習者の産出する発話や文章における特徴及び日本語母語話者の産出する発話との比較に関する研究として、田代（1995）、渡辺（1996）、深川（2007）などがある。例えば、深川（2007）は、上級日本語学習者 10 名と日本語母語話者 5 名のインタビューの発話における接続表現を抽出し、両者の使用状況について分析している。その結果から、上級日本語学習者は、1 文レベルでの文の接続はあまり問題ないが、文と文をつなぎ、談話としてのまとまりを形成するための多様な言語形式はあまり運用していないことがわかった。

このような日本語教育分野の先行研究において、接続表現に関する研究の協力者はほとんど、日本語専攻者あるいは専門家による日本語教育を受けた日本語学習者である。本稿の研究協力者とした中国人結婚移住女性のように、十分な日本語教育を受けていない人々はその範囲に含まれていない。

3　研究方法

本稿では、以下の 2 つの分析をおこない、その結果をもとに基礎日本語学習教材における接続表現の提示方法について考察する。

3.1　筆者によるインタビューの協力者

インタビューの協力者は新潟市に在住している 2 名の中国人結婚移住女性、A さんと B さんである。インタビューは 2017 年 9 月 16 日に新潟市内でおこなった。

B さんは、日本人と結婚するため 2015 年 10 月に来日し、新潟に在住している。来日する前に、地元中国の日本語教室で 3 カ月間、日本語を勉強した。来日後もすぐに、新潟市の市民交流機関で週に 5 回日本語学習を始めた。初級の日本語教科書『みんなの日本語』[4)]の学習を終了し、市民交流機関での日本語学習をやめた。現在の日本語学習は主に自宅で一人でおこなっている。

A さんも日本人との結婚により 2016 年 7 月に日本に移住している。来日する前に日本語を勉強した経験はなかった。来日の 1 カ月後、新潟市の市民交流機関で週に 2 回『みんなの日本語』を使用して日本語を勉強した。現在は、時間がある時だけ市民交流機関に通っている。他に字幕がついたテレビ番組を見ることで日本語学習をおこなっている。

本稿での分析方法は、録音したインタビュー内容を文字化し、中国人結婚移女性の発話における接続表現を抽出し、その使用状況を分析するものである。インタビュー内容は、「最近、一

番充実した、あるいは面白かったと思った日はいつか、その時、何をしたか」について自分で語ってもらう形式である。

3.2　初級日本語教科書の教材分析

本稿では、中国人結婚移住女性の日本語学習で重要な役割を果たしている初級日本語教科書『みんなの日本語』の談話展開における接続表現の特徴について分析した。

『みんなの日本語』を分析対象とする理由は、2 人の調査協力者が使用した教科書であることに加えて、メインテキスト及びその副教材が最も多くの日本語教育機関で使用されているからである[5)]。

初級の『みんなの日本語』はⅠとⅡの 2 冊に分けられている。各冊は 25 課で構成されている。各課は文型、例文、会話、練習、問題、復習、まとめから構成されている。本稿で分析対象とする箇所は文型以外の部分である。

4　分析結果と考察

4.1　協力者の接続表現の使用状況

以下は、A さんと B さんの「最近、一番充実した、あるいは面白かったと思った日はいつか、その時何をしたか」について語った内容の資料である。下線部分は接続表現を指している。また、談話の展開方法を明確に分析するため、各センテンスの前に番号を振って分けている。ただし B さんの発話には接続表現がないため、番号を振っていない。

【A さん】

①先週、土曜日、朝、7 時に起きました。②それから、ごはん食べたり。③片付けが終わったら、主人と出かけます。④新潟県の津南市の向日葵行きました。⑤高速道路、車で 1 時間ぐらいかかります。⑥渋滞からちょっと遅かったです。⑦昼、2 時 40 分ごろ、津南市についたら、人がすごく多かったです。⑧向日葵の広場、すごくきれいでした。⑨向日葵の広場は、みんな写真を撮りたいから、道があります。⑩みんな、入って写真を撮りました。⑪すごく、おもしろかったです。⑫津南の一番、有名なとうもろこしを食べました。⑬アイスクリームを食べたり、写真を撮ったり、それから、向日葵の広場の周り、散歩したり。⑭3 時半ごろ家に帰りました。⑮それから、スーパー、材料を買いました。⑯うちに帰ったら、晩ごはんを作ったり。⑰すごく、おもしろかった 1 日です。

【B さん】

先週、土曜日、先週、土曜日、主人と一緒に東京に行きました。東京、妹家に住んでいます。妹家は、朝、5 時ぐらい起きました。一緒に品川に行きました。昼頃、妹の家に帰りました。

午後、1 時ぐらい、妹、主人、子供たち、一緒に横浜へ行きました。横浜、横浜の港、ピカチュウ見ました。夜、中華街、しゃぶしゃぶ食べました。とてもおいしかった。終わった、横浜の海の隣、夜の景色見ました。とても、きれいでした。何時、じょじ（10 時）ぐらい家に帰りました。とても、おもしろかったです。

以上の談話資料を全体的に見ると、A さんは接続詞や接続助詞などを使って、単文だけではなく、複文を作って談話を形成していることがわかる。それに対して B さんの発話では、接続表現の使用はひとつもなかった。すなわちただの単文の羅列であった。

談話資料を詳細に見ると、A さんは接続表現を用いて文と文をつないで談話を形成しているが、7 か所の誤用があった。A さんの談話における接続表現には、「それから」、「～たり～たりする」、「～たら」、「～から（原因）」（表 1）[6]がある。その中で時間順序性を示す「それから」は 3 回出現し、すべて正確に用いられていた。

「～たり～たりする」は合計 4 回出てきた。「～たり～たりする」の多用はおそらく、調査協力者が「一日について」について語っている際、例を挙げる表現を使うべきだという意識を持っているからだと考えられる。しかし、そういう意識があっても、言語表現の使い方を正確に把握できていないままと、正しく運用することができない。「～たり～たりする」文は一部列挙を表す接続表現であり、「～たり」という部分が最低限 1 つあれば成立できるが、「～たり」に後続する「する」は省略できない。しかし、協力者は後続の「する」をすべて省略していた。例えば、②「それから、ごはんを食べたり」、⑯「うちに帰ったら、晩ごはんを作ったり」のように、一連の出来事の中に代表的な例を出す時、協力者はそのまま「～たり」で文を終わらせている[7]。

「～たら」に関して、協力者の発話③「片付けが終わったら、主人と出かけます」と⑦「昼、2 時 40 分ごろ、津南市についたら、人がすごく多かったです」及び⑯「うちに帰ったら、晩ごはんを作ったり」の 3 つが出てきた。そして、3 つの用法はすべて誤用である。③の「片づけること」と「ご飯を作ること」の両文は継起の関係で、「て」でつなぐべきである。⑯にも同じ問題がある。また、⑦の「人がすごく多かった」を発見する前提は「津南市に着いた」ことの発生である。よって、ここでは、「津南市についたら」を「津南市につきました」に言うべきである。また、原因・理由を表す「～から」は 2 回用いられている。両方とも正しく使用されているが、⑨「向日葵の広場は、みんな写真を撮りたいから、道があります」は「みんなが向日葵の中に入って、写真を撮るので、だんだん、道が出てきた」と言いたかったと考えるので、ここでの使用は不自然である。

表 1．協力者 A の発話における接続表現

	それから	～たり～たりする	～たら	～から（原因・理由）
使用数	3	4	3	2
誤用数	0	4	3	0

4.2　日本語初級教科書における接続表現

4.2.1　『みんなの日本語』における接続表現

『みんなの日本語』は第 6 課から接続表現を導入しはじめている。最初に出てくるのは継起を表す「それから」である。例文、練習、問題のところに「それから」を扱った文がある。また、問題のところに、「ミラーさんの毎日」という短文がある。この段階では「それから」という接続表現しか導入されていないので、ここでのミラーさんの一日についての展開は、「それから」の表現以外は、「朝ごはんは……」、「会社は……」、「土曜日は……」のように「～は」を主題化し、談話を語り続けている。

【ミラーさんの毎日】

ミラーさんは毎朝 7 時に起きます。朝ごはんは、いつもパンとコーヒーです。電車で会社へ行きます。会社は 9 時から 5 時半までです。7 時にうちへ帰ります。7 時半に晩ごはんを食べます。それからテレビを見ます。英語の新聞を読みます。夜 12 時に寝ます。

土曜日と日曜日は働きません。土曜日は朝図書館に行きます。午後、テニスをします。日曜日はどこも行きません。休みます。

（出典：『みんなの日本語 I 』第 6 課　問題 6　p.53）

第 7 課は新しく接続表現を導入していないが、時間的順序性の叙述ができるように、復習として問題のところに「土曜日と日曜日」をテーマにする談話がある。第 8 課は逆接の「～が」を導入している。また、累加を表す「そして」が問題「ワット先生」という短文に出現している。

【ワット先生】

ワットさんはさくらの大学の英語の先生です。毎日赤い車で大学へ行きます。さくら大学は大きい大学ではありませんが、いい大学です。ワットさんはいつも食堂で昼ごはんを食べます。食堂は 12 時から 1 時までとてもにぎやかです。食堂の食べ物はおいしいです。そして、安いです。大学の仕事は忙しいですが、楽しいです。

（出典：『みんなの日本語 I 』第 8 課　問題 7　p.71 ）

第 9 課から原因・理由を表す「～から」を提示している。第 11 課は会話のところで「それから」の追加の意味を表す用法を導入している。第 12 課は第 8 課の逆接と別の「でも」という接続詞を導入している。以下は接続表現を導入しはじめる第 6 課から第 12 課までの教科書における接続表現の分布と頻度のまとめである（表 2）。

表 2．第 6 課から第 12 課までの教科書における接続表現の分布と頻度

	出現位置	本課に出現する頻度
それから（継起）	第 6 課：会話以外	5 回（練習と問題：4 回）
が（逆接）	第 8 課：各部分	7 回（練習と問題：5 回）
そして	第 8 課：問題の部分	1 回
から（理由）	第 9 課：各部分	18 回（練習と問題：15 回）
それから（追加）	第 11 課：会話の部分	1 回
でも	第 12 課：会話の部分	1 回

また、第 14 課から「て」形の活用の導入により、接続表現が豊富になってくる。「て」形を利用し文と文の接続関係を表す用法の提示は第 16 課からである。ここで提示している「て」形の接続は三つの用法がある。

（1）朝、ジョギングをして、シャワーを浴びて、会社へ行きます。（継起）
（2）このパソンコンは軽くて便利です。（並列用法）
（3）東京駅から 16 番のバスに乗って、大学前で降ります。（手段・方法）

（1）～（3）は「継起」、「並列」、「手段・方法」を表す「て」形である。（2）のイ形容詞の並列を表す「くて」以外、動詞の並列表す「て」、ナ形容詞・名詞の並列を表す「で」も第 16 課で提示されている。第 17 課は接続詞「ですから」を導入し、原因や理由を表す接続表現が第 9 課の文末の「から」だけでなく、文頭で使う表現も出てくる。

また、協力者 A さんの発話で多く用いられている並列関係の羅列を表す「～たり～たりする」は第 19 課で提示されている。二つの節が対等な関係で並ぶもので「～たり～たりする」以外に「て」形などもある。同じ用法を持っている異なる表現が出現する時は、両方の異なる点を学習者に提示する必要があると考える。その理由は以下の王瑜青（2016）の分析から説明できる。

（1）学習者は、意図した文と文の関係を知らず、形式的に「て」形で文と文をつないで相応しくない接続表現を使用している。

（2）学習者がいったん、文末、例示表現などの文と文の関係を強く示す要素を認識すれば、過去の事実を表す「た」と複数の内容の並列の「～たり～たりする」が正しく使用されている傾向が見られた。

つまり、学習者にとって重要なのは「て」形の作り方ではなく、「て」形の前後の文の関係及び、「て」形に似ている文法項目との相違点の学習である。特に、「～たり～たりする」を提示している第 19 課及びそれ以降の課で、並列を表す「て」形と「～たり～たりする」が同時に出現する場合がある。学習者が混乱しないように、早めにその 2 つの違いを学習者に提示したほうがよいと考られる。今回の協力者の分析結果から見ても両者の相違点を提示する必要があると考える。

第 19 課には、「～たり～たりする」以外にも、接続表現「しかし」も提示されている。第 20 課には逆接を表すもう 1 つの表現が提示されている。それは「～けど」である。また、順次的動作を表す「と」は第 23 課から提示されている。「このボタンを押すと、お釣りが出ます」の例文のように、前後節は時間の差があり、続いて継起する関係を持っている。第 25 課では、2 つの接続表現が提示されている。一つは仮定条件を表す「～ても」であり、もう 1 つは協力者 A の談話で使われている「～たら」である。両方とも仮定の意味を持っているが、前文と後文の関係はまったく異なっている。また、確かに「～たら」は継起関係を表す用法があるが、4.1 で示した A さんのデータ、②「片付けが終わったら、主人と出かけます」のような前文と後文が既に事実の場合、継起関係を表す「て」形を使用すべきである[8]。(②「片づけが終わったら、主人と出かけます」→「片づけが終わったら主人と出かけました）[9]

表 3 に、『みんなの日本語』第 16 課以降の各課における接続表現の分布と頻度を示す。

表 3．第 14 課から第 25 課までの教科書における接続表現の分布と頻度

	出現位置	本課に出現する頻度
くて/で	第 16 課：会話以外	29 回（練習と問題：25 回）
てから	第 16 課：会話以外	15 回（練習と問題：14 回）
～て～て	第 16 課：各部分	16 回（練習と問題 14 回）
て（方法・手段）	第 16 課：例文以外	1 回
ですから	第 17 課：会話以外	5 回（練習 4 回）
～たり～たりする	第 19 課：各部分	19 回（練習と問題 16 回）
しかし	第 19 課：会話	1 回
けど	第 20 課：各部分	5 回（練習と問題 3 回）
ても	第 25 課：各部分	16 回（練習と問題 13 回）

たら	第 25 課：各部分	60 回（練習と問題：50 回）

4.2.2　『NEJ』における接続表現

ここでは、他の初級日本語教科書と比較することで、『みんなの日本語』における接続表現の提示方法について検討する。他教材として『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese－テーマで学ぶ基礎日本語－』（以下『NEJ』と省略する）を取り上げた。『NEJ』は、文法や文型よりまとまった談話習得を重視しており、『みんなの日本語』と同様に 2 冊に分けられている。各冊は 12 のユニットで構成されている。また、各課の主要な部分が会話の形式である『みんなの日本語』と異なり、いろいろなテーマについて順次に話せるように工夫している教科書である。よって、両者を比較することで、初級日本語教科書の接続表現の提示のしかたをさらに深く分析できると考えた。

今回の分析対象として、『NEJ』の VOL.1 のユニット 4 及び 6 を選んだ。その 2 つの課を選んだ理由は本文の内容が協力者のインタビュー内容と同じ内容だからである。また、学習進度もほぼ同じであることも理由の一つである[10)]。以下、取り上げた 2 つの課を詳細に見ていく。

ユニット 4 は、登場人物の毎日の生活をテーマにし、パート A「何時に起きますか」とパート B「夜は、何をしますか」の 2 つの部分で、登場人物リさんとあきおさんの日常生活を紹介している。このユニットでは、動詞の活用や接続助詞の使用などがまだ導入されていないので、文と文をつなぎ、後続部が談話の先行部や談話全体とどのような関係にあるかを示す要素は接続詞（下線は該当部分を示す）である。ここではパート A「何時に起きますか」のリさんの談話を分析する。

ユニット 4　リさん

① 朝は、いつも、7 時半に起きます。
② <u>そして</u>、朝ごはんを食べます。
③ 8 時半に学校に行きます。
④ 自転車で学校に行きます。学校は近いです。
⑤ 自転車で、10 分くらいです。
⑥ 授業は、8 時 50 分に始まります。
⑦ 昼ごはんは、食堂で食べます。
⑧ 友だちといっしょに食べます。
⑨ 授業は、たいてい 4 時 10 分に終わります。
⑩ <u>それから</u>、図書館に行きます。
⑪ <u>そして</u>、5 時半ごろにうちに帰ります。

この談話は、リさんの朝から学校が終わるまでの平日の一日の一連の活動について語っている。①「朝は、いつも 7 時に起きます」、⑥「授業は、8 時 50 分に始まります」、⑨「授業は、たいてい 4 時 10 分に終わります」の 3 つの文における「は」によって、この談話は 3 つの部分に構成され、展開されていくことがわかる。はじめ②の部分において、「そして」を使い、朝の起床時間と起床後のことを紹介する。3 つ目の部分（⑩と⑪）において、「それから」、「そして」を使い、授業後の「図書館に行く」、「家に帰る」の一連のことを表している。「そして」は、先行部で示されたものや事態と同類のものを示し、つけ加える用法と、時間的に先行部に続いて後続部が生起した継起の用法がある（日本語記述文法研究会 2009：86）。ユニット 4 のすべての登場人物の談話では、「そして」が合計 11 回出てきて、しかも全部継起の用法である。「それから」は、その場で一つ一つ思い出しながら列挙する用法と時間的順序性を示す用法がある。このユニットのすべての談話における「それから」は 6 回で、すべて、時間的順序性を示している。

ユニット 6 は、登場人物のリさんとあきおさんが外出した一日について語っている。ユニット 4 に出てきた「そして」、「それから」以外に、本ユニットには、⑭「それで」、⑱「でも」のような接続詞も導入している。「それで」を用い、⑬「おなかがすいた」と⑭「ごはんを食べに行った」と 2 つの事実の因果関係を表している。「でも」を使い、リさんの気持ちは料理の味に影響されないことを示している。この 2 つの表現の導入によって、文と文の関係は前の単純な順接の関係に留まるだけでなく、逆接の関係もあった。また、今回出てきた「そして」は前のユニットでの「継起」の意味ではなく、並列・累加を表す意味である。

ユニット 6　リさん

①　わたしは、土曜日に、友だちといっしょに、買い物に行きました。②　ショッピングモールは、とてもきれいで大きかったです。③　そして、モールの中に庭がありました。④　庭には、木がありました。⑤　本当に、広くてすてきなショッピングモールでした。

⑥　ショッピングモールには、人がたくさんいました。⑦　そして、いろいろな店がありました。⑧　わたしは、白いポロシャツと、チェックのスカートと、ジーンズを買いました。⑨　そして、かわいいポーチと、小さくてかわいいボールペンを買いました。⑩　友だちは、ストライプのシャツと、くつと、食器を買いました。

⑪　わたしたちは、4 時間くらい買い物をしました。⑫　つかれました。⑬　そして、とてもおなかがすきました。⑭　それで、わたしたちは、ごはんを食べに行きました。⑮　ショッピングモールには、いろいろなレストランがありました。⑯　わたしたちは、中華の店に入りました。⑰　味がうすくてあまりおいしくなかったです。⑱　でも、買い物はとても楽しかったです。⑲　また、行きたいです。

一方で、接続詞のような接続表現以外に、本ユニットではイ形容詞とナ形容動詞の並列を表す「くて」、「で」を導入し、節と節を並べる接続法を提示している。また、ユニット 4 の時間順の展開と異なり、本ユニットの談話の展開は時間順序性がうすく、「友だちといっしょに買い物に行った」という大トピックを前提にし、「ショッピングモールの風景」、「ショッピングモールで買ったもの」、「ショッピング後の食事」の 3 つの小トピックで構成されている。

ユニット 4 及びユニット 6 での『NEJ』の接続表現は（表 4）のようにまとめられる。

表 4．取り上げた『NEJ』の談話における接続表現の頻度

	そして	それから	それで	でも	くて	で
ユニット 4	2	1	0	0	0	0
ユニット 6	4	0	1	1	3	1

5　まとめと今後の課題

本稿では、インタビューにより中国人結婚移住女性の実際の日本語能力を検証し、特に談話展開における接続表現に関して初級日本語教科書と対照しながら検討した。4.1 節の中国人結婚移住女性のインタビューデータから、A さんも B さんも初級の教科書で提示されている接続表現が運用場面で十分に使えていないことがわかった。特に B さんの場合は、接続表現がほとんど出現していないことからその表現が定着していないと言える。

『みんなの日本語』について、次のような問題があると考えられる。今回、取り上げた入門期の日本語の接続表現は『みんなの日本語』では学習の中心となる部分に提示されていない。具体的に言うと、「そして」については読解問題の中に示されているだけである。それに対し『NEJ』の談話における接続表現は豊富であり、形の作り方より発話での運用を重視している。例えばユニット 6 では、一日について語る際、5 種類の接続表現を用いて談話を展開している。

一方、なぜ、インタビュー協力者は既習項目として学習した「～たり～たりする」、「～たら」の用法が実際の運用場面で使用できないのであろうか。上に上げられた問題点からわかったのは導入されている接続表現はほとんど各課の主要箇所ではなく、課の終わりの練習や復習問題のところにあったのである。授業時間が限られているため、練習、問題の部分が省略される場面もあるので、学習者が接続表現を見逃す可能性もあると考えられる。特に、教師たちが提示していない場面、学習者は一層意識化ができない。よって、教科書における接続表現の提示位置を見直す必要があると考えられる。そこで今後の課題として、インタビュー協力者の人数を増やして分析することに加え、接続表現の提示の位置、使用頻度の高い接続表現の提示、似ている接続表現の相違点の 3 点をより深く考察し、中国人結婚移住女性の接続表現の習得に役立つ学習内容を提示する必要がある。

＜注＞

1) 中国人結婚移住女性富谷・内海・斉藤（2009）では、日本人男性との結婚によって日本に移住し、かつ日本に在住している女性を「結婚移住女性」と呼ぶ。本稿でも、この用語を使用する。
2) 王瑜青（2016）の新潟市に在住している中国人結婚移住女性のインタビューから彼女たちの日本語学習の悩みがわかった。
3) 接続表現とは、「個別に切り離して表現することのできる二つ以上の語・句（文節・連文節）・文・段落（文章）、または、それ相当の形式によって表現された叙述内容相互間を同一語句の反復、指示詞・接続詞。副詞・接続助詞・活用語の中止法の連用形などの使用によって関係づけ、結び合わせること。また、その表現」（『国語学大辞典』1980: 552）というものである。
4) 初級『みんなの日本語』は『みんなの日本語Ⅰ』と『みんなの日本語Ⅱ』の 2 冊がある。本稿では、ⅠとⅡに分けない、初級の『みんなの日本語』と省略する。
5) JICA 日本語教師ボランティア使用教材調査の統計から、233 機関のうち、70.8%にあたる 165 機関において主教材または副教材として『みんなの日本語』を使用している。
（http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject2301.nsf/VW0101X02W/125CBF92DB160BB94925711B001206E5?OpenDocument）
6) 本稿では、すべての表が筆者による作成である。
7) 日常会話では、「する」を省略することがあるので、今後、日本語母語話者の会話データの分析も必要であると考えている。しかし、A さんの「する」の省略が不自然であることを日本語母語話者に録音データを聞いてもらい確認している。
8) 第 26 課から『みんなの日本語Ⅱ』に入り、ほかの接続表現が導入されているが、今回の協力者が使っていない接続表現であるので、本稿での分析を省略する。
9) 今回は接続表現だけに絞っているので、テンスの誤用を扱っていない。
10) 『みんなの日本語』と『NEJ』の指導参考書に書いている各課の学習時間の目安を計算し、『みんなの日本語』第 7 課まで 42 時間、『NEJ』ユニット 6 まで 48 時間かかることがわかった。

＜参考文献＞

池上嘉彦（1983）「テクストとテクストの構造」『日本語教育指導参考書 11　談話の研究と教育Ⅰ』国立国語研究所
石田敏子（1991）「フランスとテクストの構成」『日本語教育』75、64-77
王瑜青（2016）「定住外国人学習者の持っている文法規則－日本人と結婚した中国人女性の場合－」『現代社会文化研究』No.63、161-171
国語学会（編）（1980）『国語学大辞典』東京堂
小山貴之（2014）「結束性と一貫性に基づく文章指導」『創価大学大学院紀要』36、435-432
砂川有里子（2005）『文法と談話の接点－日本語の談話における主題展開機能の研究－』くろしお出版
孫莉（2015）「中国人日本語学習者の小集団討論における接続表現」『日本語教育方法研究会誌』22（1）、84-85
田代ひとみ（1995）「中上級日本語学習者の文章表現の問題点－不自然さ・わかりにくさの原因をめぐる—」『日本語教育』85、25-32
富谷玲子・内海由美子・斉藤裕美（2009）「結婚移住女性の言語生活－自然習得による日本力の実際分析－」『多言語文化－実践と研究』2、116-137
西口光一（2012）『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese－テーマで学ぶ基礎日本語－』VOL.1、くろしお出版
日本記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法 7　12 談話・13 待遇表現』くろしお出版
深川美帆（2009）『日本語学習者の談話における接続表現の習得』名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士論文
深川美帆（2007）「接続表現から見た上級日本語学習者の談話の特徴－日本語母語話者と比較して－」『言と文化』 8、253-268
スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語Ⅰ』スリーエーネットワーク
メイナード、泉・K（1997）『談話分析の可能性－理論・方法・日本語の表現性－』くろしお出版
渡辺亜子（1996）『中・上級日本語学習者の談話展開』くろしお出版
Halliday M.A.K. and Hasan （1976）Cohesion in English.Longman,（安藤貞雄他訳（1997）『テクストはどの

ように構成されるか』）ひつじ書房

主指導教員（江畑冬生准教授）、副指導教員（足立祐子准教授・池田英喜准教授）